

「日本農業新聞」

平成二十二年二月十日（水）

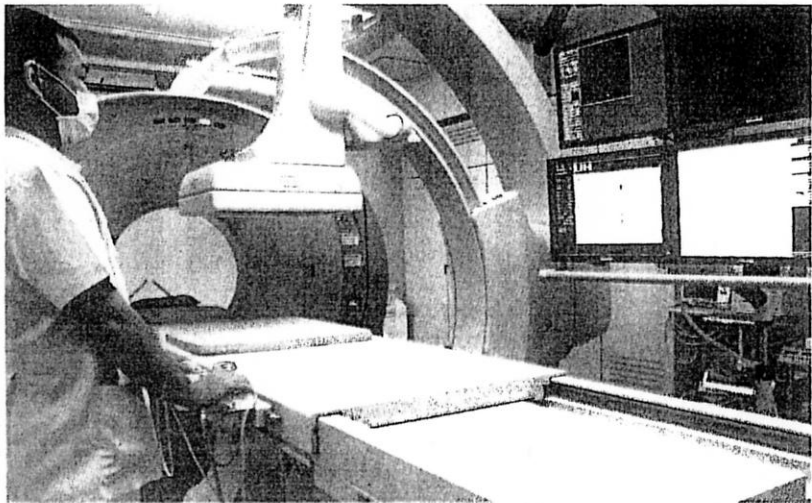
島病院  
鹿厚生連

# 新血管造影装置を導入 診断的素早く治療

【鹿児島】JA鹿児島県厚生連の鹿児島厚生連病院は、血管造影検査とコンピュータ断層撮影（CT）検査を組み合わせた血管造影装置（IVRCT）を更新した。動くことなく患者の腹部や心臓などの臓器を多方向から撮影でき、さらに血管に造影剤を注入しながら体内の部位の撮影が可能になった。

同装置は従来の装置よりも、体内に入ったカテーテルやガイドワイヤといった医材も鮮明に映し出すことができ、観察しやすく、CT撮影では短時間で薄い幅の像が撮れるため3次的に病変が描出できるなど、的確な診断と治療ができるようになった。

検査対象は肝臓を主とした腹部、心臓、四肢血



病変の診断と治療に威力を発揮する新血管造影装置（鹿児島市の鹿児島厚生連病院で）

管など、あらゆる部位。肺がんの細胞を取って確定診断する検査にも使用できる。患者に求められる呼吸停止が短時間にな

り楽になったほか、医師やスタッフの被ばく低減にも有効だ。新機器導入は、高度医療における病院の信頼向

上と患者の受け入れ増に期待が高まる。中央検査室の石山重行室長は「利用者には精度の高い診断が提供できるようになった。これからは信頼され親しまれる病院を目指したい」と抱負を語る。